

小学3年生向け学習プログラムの20年

椿原佳恵・西尾嘉美・早栗佐知子（当館学芸員）

はじめに

西宮市立郷土資料館では、小学校の団体見学の受け入れを行っており、とくに、社会科単元「くらしのうつりかわり」を学ぶ小学3年生の団体見学を多く受け入れている。

当館の小学3年生向け学習プログラムは2001年から開始した。当時の学習指導要領に、「総合的な学習の時間」が新設されたことにより、体験学習や児童の主体的な学びを重視することが学習目標とされ、社会科の学習内容や教材に合わせて校区や周辺地域の施設を訪れる「社会見学」のニーズが高まっていた。また、ワークシートの活用や体験学習・ハンズオン等によって、楽しみながら学ぶ場としての公共施設におけるソフト面の充実が求められていたことから、当館においても小学3年生向けの学習プログラムを設けることとなった。

以下、当館の20年間における小学3年生向け学習プログラムの変遷とその内容について報告する（註）。

1. 小学校団体見学対応の流れ

当館の小学校団体見学受け入れの流れを簡単に紹介する。①教員から見学申込の連絡、②教員と下見の日程調整、③下見時に見学当日のプログラム内容の打合せ、④見学当日、という流れである。

現在の小学校団体見学用の学習プログラムは主に2種類ある。ひとつは常設展示室の見学、もうひとつは講座室での民具などの実物資料の見学であり、見学当日は団体を2グループに分けて入れ替え制で対応している。



写真1 展示室でのクイズの様子

常設展示室の見学では、小学生が自由に見学しながらクイズを解いて西宮の歴史を学ぶ「西宮市立郷土資料館たんけんクイズ」を用意している(写真1)。

クイズの他には教員の希望に合わせて選択した展示室の資料を重点的に解説することも可能であり、農具を用いて米作りについて解説したり、教科書の解説をしながら昔の学校生活について解説をしたりしている。実物資料の見学は、小学3年生の社会科単元「くらしのうつりかわり」に関連する民具について、学芸員の解説を聞きながら観察してもらうプログラムで、「むかしの洗濯」・「むかしの部屋」・「むかしの食事」の3種類のテーマの中から選択できる(写真2)。



写真2 「むかしの洗濯」の解説の様子

2. 学習プログラムの変遷

2001年から2021年にかけての小学3年生向け学習プログラムの変遷について紹介する。

2001年に学習プログラムを開始するにあたって、常設展示室の展示ケース内に小学3年生対象の「子ども向けキャプション」を設置した。キャプション作成の際、小学3年生が読みやすいように、

文字を大きくする、3年生までに習った漢字の使用、ふりがなをつける等の工夫をした。内容は一部改訂したが、現在も継続して設置している(写真3)。

また、企画展の内容に合わせた子ども向けワークシートを作成し、実物資料を使った演解説を行うプログラムを設けた。この学習プログラムの開始を周知するため、企画展と団体見学プログラムの内容を掲載した小学3年生団体見学誘致のチラシを作成し、市内小学校の教員宛に配布した。

その後、2007年に展示室内で実施する常設展示資料に関するクイズを作成し、2010年までのプログラム内容はクイズと西宮市広報ビデオ「西宮のおいたち 産業を中心に」(約14分)の視聴の2種類があり、団体を2グループに分けて入れ替え制で対応した。

2011年から、小学3・4年生向け社会科副読本『わたしたちの西宮』に掲載されている「むかしの道具」を参考にし、実物資料約10点を用いて解説を行うプログラムを新設した。これにより、プログラム内容は①クイズ、②「西宮のおいたち」のDVD視聴、③実物資料の見学の3種類となり、教員からの希望に合わせて



写真3 子ども向けキャプション(右側)

3つ全部、いずれか2つを選択する等、柔軟な対応ができるようになり、解説する部屋の確保や人員の調整をすることで、児童数の多い学校の対応も可能となった。また、教員からの要望に合わせて解説する民具を変更したり、民具の解説をもとにクイズ形式で考えてもらうミニワークを取り入れたりした。

展示室内でのクイズと実物資料の見学を選択する学校団体が増加する一方で、「西宮のおいたち」のDVD視聴を選択する学校団体は年々減少していった。2016年からDVDの内容が小学3年生には難しく、製作から年数が経過していたこともあり、学習プログラムからDVDの視聴を取り止めた。これにより、プログラムの内容は常設展示室の見学（クイズもしくは資料解説）と実物資料の見学の入れ替え制となった。

3. 常設展示室内でのクイズの実施

当館は西宮地方の歴史と文化財を実物資料で知ることができる、唯一の施設であり、常設展示室には約250点の資料を展示している（写真4）。

学習プログラムの1つであるクイズは、小学3年生が展示室を見学しながら西宮の歴史を楽しんで学べるように作成したものである。



写真4 常設展示室

クイズを作成した当初は、カード型とブック型の2種類があった。2010年からは、A4サイズの色上質紙を四つ切りにした大きさの用紙に問題が3問ずつ書かれたカード型（全5種類）に統一した（図1）。しかし、市内の児童が来館時に持参する「たんけんボード」（クリップボード）がA4サイズであることを考慮し、2016年にボードに挟みやすいA4サイズの「西宮市立郷土資料館たんけんクイズ！」A・Bの2種類を作成した。このクイズは児童が展示室を探検しながら問題を解くというコンセプトで、展示室の資料を「土の中に埋まっていたくらし」（考古資料）、「西宮とお酒」、「樽廻船」、「名塩紙」、「生瀬宿」、「農具」の大きく6つのコーナーに分けて問題を作成したものである。児童は解こうとするコーナーのコーナーキャプションを探して子ども向けキャプションを読むと、クイズの答えに導かれる形式となっている。クイズAは展示室の地図付きで問題8問、所要時間約20分、クイズBは問題9問、所要時間約30分と設定し、教員の要望によって、A・Bを選択できるようにした。

2018年から、展示室の地図を掲載している方が、児童が子ども向けキャプションを探しやすいという教員の意見を反映し、地図を掲載したクイズに統一した（図2）。クイズの裏面には、見学後に教員が授業で活用できるように常設展示の資料の解説を掲載している。

2020年から2021年にかけては、新型コロナウイルス感染症対策で、展示室内での滞在時間を短くするために、クイズの問題数を従来の8問から6問に減らした。また、問題を解くときに児童が分散するようコーナーキャプション設置場所を「土の中に埋まっていたくらし」（考古資料）、「樽廻船」、「名塩紙」、「生瀬宿」、「農具」、「絵はがき」に変更したため、クイズの改訂を行い所要時間を10分短縮し、約20分とした。

青のカード

【たるかいせん のコーナー】

①「たるかいせん」をさがそう！ お酒のたるをいくつかむことができるかな??	→		→	個
②たるかいせんレース ^{いっとうしょう} で一等賞になると、何色のなんていう服をきたのかな??	→		→	色の
③「わじしゃく」をさがそう！ これは、何を知るためのどうぐかな??	→		→	

図1 常設展示室カード型クイズ

にしのみやしりつ きょうどしりょうかん

西宮市立郷土資料館 たんけんクイズ！

たんけんのてびき まん中にあるのは、てんじ室の地図だ！

📍のマークがさしている、ばしょにいてみよう。
クイズをよくよんで答えよう！

《作成》
西宮市立郷土資料館
〒662-0944
西宮市川添町15-26
☎0798-33-1298
開館10時～17時 月曜休館

なまえ

①「紙すきのおじさん」が、手に持っているどうぐのなまえは何かな？

はんさつ

②「藩札」って、むかしの何かな？

なまぜじゆく

③「とうみ」は、何の力を使って、お米ともみがらゴミをわけるのかな？

のうぐ

スタート (入口)

①お酒をはこぶ船「たるかいせん」は、お酒のたるをいくつかむことができる？

📍-たるかいせん-

②海を行く船で使う「わじしゃく」は、何を知るためのどうぐ？

📍-なまぜじゆく-

「さけかぶふだ」を持っていると何ができたかな？

📍-にしのみやとお酒-

むかしの家の屋根は、何でつくられているのかな？

📍-なまぜじゆく-

📍土の中にうまっていたくらし

📍「銅戈」は、どこから出てきたのだから？

📍てんじ室の中では…

- ・はしらない。
- ・大きな声で話さない。
- ・ガラスにさわらない。

📍気になったことをメモしよう！スケッチしてもいいよ！

図2 郷土資料館たんけんクイズ

4. 実物資料を使った見学対応

実物資料の見学は、小学3年生の社会科学単元「くらしのうつりかわり」の学習内容に合わせて、学芸員が民具を用いて児童に演示解説を行い、人々のくらしや道具のうつりかわりについて学ぶプログラムとなっている。プログラム開始時は、児童に民具約10点の解説後、民具の写真に掲載しているプリントに名称を記入してもらう形式であった。解説に使用した民具は次の通りである。「暖める道具（暖房）」は湯たんぽ・火鉢・やぐらこたつ、「身につける道具」は草鞋・笠、「洗濯に関係する道具」は洗濯板・たらい・火のし、「灯りの道具」は行灯・がندوقであった（写真5）。

2016年以降、教員から解説時に使用する民具を児童に触れさせたいという要望が増えたため、実物資料の見学のプログラム内容を大きく改訂し、2016年から2019年にかけて、児童に民具を手にとって観察してもらう時間を新たに設けた（写真6）。さらに、解説内容については、個々の民具の名称・使い方の解説だけでなく、くらしの変化に伴う道具の変遷などの時間軸を念頭に置いた解説に重点を移し、衣食住をテーマにした「むかしの洗濯」・「むかしの食事」・「むかしの部屋」の3種類のプログラムを用意し、いずれも所要時間約30分と設定した。また、各テーマの解説内容に合わせて児童用の解説資料を作成した（図3）。

各プログラム内容は次のようになっている。

衣をテーマとする「むかしの洗濯」では、洗濯するために必要な道具を紹介する。「洗うための道具」として洗濯板・たらい、「乾いてから使う道具」として火のし・炭火アイロン、関連資料として、火鉢・火消し壺を解説し、服のしわを伸ばすための道具、熱源となる炭に関する道具を観察し、水などの資源を最後まで使い切る工夫について解説を行う。

食をテーマとする「むかしの食事」は、当初は「ごはんたき」という名称であったが、炊飯に限らず食事に関連する道具全般を解説するとして、2019年から現名称に変更した。「炊くための道具」で杵・羽釜、「保存するための道具」でめしびつ・ふご・保温ジャー、「ごはんを食べるときに使う道具」で箱膳について解説し、炊飯の道具、炊き上がったご飯を保存する道具、食事の道具を観察



写真5 実物資料の見学の様子



写真6 火のしを手取る児童

し、食事に関する変化や現代の生活用具につながる知恵やその様子を紹介する。

住をテーマとした「むかしの部屋」は、2016年から2018年まで「冬の部屋」という名称であったが、今後、冬以外の季節の部屋の中で使う道具を解説していくことを想定し、「むかしの部屋」に名称を変更した。当初は暖房の道具とあかりの道具の解説を組み合わせたプログラムで、暖房の道具は「体を温める道具」としてやぐらこたつ・湯たんぽ・火鉢、「部屋で使う灯りの道具」では行灯・手燭、「外で使う灯りの道具」として、がんどう・カンテラを用いた。ただし、暖房の道具は手に取ることができる道具、灯りの道具は資料の保護の観点から触れない道具として区別した。2019年以降は、暖房の道具を中心に解説するようにし、室内で使われていた暖をとるための道具や炭を使う道具を観察し、電力普及前の時代のくらし方や知恵・工夫について解説を行っている。

2020年から2021年にかけては新型コロナウイルス感染症対策のため、民具を手にとってもらう時間を取り止め、児童に間近で民具を観察してもらう時間を多く確保するようにした。そのため、各プログラム内で扱う資料数を従来の5～6点から3～4点と減らし、所要時間を約20分とした。「むかしの洗濯」では洗濯板・たらい・炭火アイロン・火のし、「むかしの部屋」では火鉢・湯たんぽ・やぐらこたつ、「むかしの食事」では羽釜・めしびつ・ふご・箱膳を解説で用いた。

むかしの道具、むかしのくらし ①

むかしのせんとくに使う道具と、今のせんとくに使う道具のちがいは、なにか？ くらべてみよう！

「むかしのせんとく」の道具

あらうための道具



せんとくいた
木でできています。表めに波のようなギザギザがあります。

たらい
木をくみあわせて作られています。竹や金属でつくった輪で、はずれないようにとめてあります。

かわいてから使う道具



炭火アイロン
火のついた炭を入れて使います。全体があつくなるので、上の持つところはやけどしないように木でできています。



ひのし
炭火アイロンと使い方は同じ。

むかしの道具

今の道具

道具のはなしで、気になったことをメモしよう！

図3 「むかしのせんとく」の解説資料

5. 小学校向け学習プログラムのホームページ公開について

当館では、2018年から「小学校向け学習プログラム」（旧名称：見る・触れる「昔のくらしの道具」体験学習プログラム）をホームページで公開し、各学習プログラムについて紹介している。

ホームページで公開した利点としては、市内及び市外の学校団体へ当館の学習プログラムを周知できたことがあげられる。公開後、市内及び市外の小学校から問合せが増加し、尼崎市・川西市・宝塚市・伊丹市・大阪市内の小学校から問合せがあった。また、ホームページ公開以前は教員に対する学習プログラムの案内は電話や書面のみで行っていたが、教員がホームページを閲覧すれば、学習プログラムについての最新情報を確認することができ、見学时に提出してもらう学校団体見学申込書のダウンロードが可能となった（写真7）。



写真7 学習プログラムのホームページ

おわりに

2020年以降は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じながら団体見学の受け入れを行っている。以前は、展示室及び講座室のそれぞれの収容人数は約60～70人と設定していたため、一度に最大4～5クラスの受け入れが可能であった。現在は、各部屋の収容人数を以前の半分である約30人とし、一度に受け入れるのは最大2～3クラスとしている。そのため、4クラス以上の小学校に対しては教員と下見時に打合せをして、クラスごとに時間差で来館、もしくは当館での学習プログラムと史跡西宮砲台（西宮市西波止町6番1外）の現地見学の組合せを提案して対応している。

また、コロナ禍の影響を受け、校外学習を実施できない小学校が増加し、当館の学校団体の入館者数は減少した。このことを踏まえて、小学校の授業で当館の学習プログラムを体験してもらえるように、プログラム内から「むかしの洗濯」の演示解説の様子を撮影し、2020年度にDVD「昔のくらしの道具解説 洗濯の道具」を製作した。なお、このDVDは小学3年生の教員に活用してもらうために、市立小学校及び義務教育学校41校に配布した。DVDについては、2021年度団体見学の下見で来館した教員から授業内での活用、学習指導の参考となったという意見を聞くことができた。一方で、DVDについて周知されていない小学校もあったので、DVDの配布方法については改善しなければならない点であり、来館する

ことが難しい小学校に向けての学習プログラム内容を検討する必要があると感じた。

当館の小学3年生向け学習プログラムは、提供開始から20年が経過した。今後さまざまな学習の場面で郷土資料館を利用してもらえるように、学習指導要領や教科書の内容、そして教員の要望を取り入れながら、新たな学習プログラムの開発及び提供をしていきたい。

(註) 当館学習プログラムの過去の事例報告については、下記を参照いただきたい。

(1) 宮原彩「さがしものたびにでよう！(上)」(『西宮市立郷土資料館ニュース』第28号、2001)

(2) 宮原彩「さがしものたびにでよう！(下)」(『西宮市立郷土資料館ニュース』第29号、2002)

(3) 宮原彩「教育普及活動における業務改善について」(『西宮市立郷土資料館 研究報告第6集』、2003)

*史跡西宮砲台指定100年記念事業

令和4年3月8日は、史跡西宮砲台（国指定）が指定されてから100年にあたります。これを記念して、西宮砲台をテーマにした展示・講座・現地見学・ワークショップなどの事業を開催します。学校団体を対象とした現地見学についても、石堡塔内部見学の代替となる学習プログラムを新たに提供していきます。



名称：西宮砲台 指定：大正11年3月8日

概要：慶応元年畿内防備ノ為メ摂津ノ海浜ニ築造セン砲台ノ一ニシテ三層ノ石造円堡ナリ同時ニ築造セラレシ隣村ノ今津砲台ハ全ク撤去セラレシモ此ノ砲台ハ先年火災ノ為メ内部木造ノ部分ヲ損傷セン外何等旧態ヲ更ムル所ナシ（「文化遺産オンライン」（文化庁）より引用）

管理団体：西宮市

寄贈資料一覧（令和元年6月から令和4年2月現在、敬称略）

写真（甲陽遊園入口付近）1点（山本康裕）／漁具一括12点（上田順男(代 上田司朗)）／関西学院大学考古学研究所蔵考古資料39箱（関西学院大学）／扇風機1点（西野陽子）／版木・印章66点（岡本紀士生）／有田光甫氏所蔵資料10点（有田定甫）／カゴ（イチゴ摘み用）6点（岸幹男）／教科用図書ほか31点（牧野保代）

ご寄贈ありがとうございました。

目次

CONTENTS

小学3年生向け学習プログラムの20年（椿原佳恵・西尾嘉美・早栗佐知子）… 1
寄贈資料一覧… 8

西宮市立郷土資料館ニュース第54号 令和4年（2022年）3月31日